クリスマスマーケットの犬

米山公啓

ドイツではクリスマスの1ヶ月前から、クリスマスマーケットが開かれる。その地方独特のクリスマス用のオーナメントなどが、街の広場に並ぶ屋台のような店で売られる。

市民にとっては寒い冬の一つの楽しみになっている。グリュー・ワインと呼ばれる温めたスパイス入りのワインを飲みながら、ソーセージをかじり、クリスマス用品を買い求める。

シュヴァルツ（クロ）という名の背中が黒い大きな犬が、クリスマスマーケットの開かれる広場に面したケーキ屋にいた。

いつもは、ひっそりとしたドイツの田舎町だったが、クリスマスの時期には大勢の人がやってくる。だからクロのいるケーキ屋も忙しくなる。

クロは普段、店の前にいて、時折入ってくる客を眺めていた。朝と夕方の時間帯を除けば、日中はそんなに忙しくはない。夕方すぎになると、クロは、店の中に入って、主人と楽しい時間を過ごす。店の売れ残りケーキやクッキーにありつくことができる。

しかし、クリスマスマーケットが開かれている間は、クロにとってはいやな時期だった。客が多いので、売れ残りのケーキやクッキーなどはなかったのだ。

マーケットが開かれている広場のほうへ行こうにも、あまりの人の多さで身動きできないほどだった。

道行く人がクロに興味を示し、頭を撫でてゆく。クロは愛想を振りまくこともなく、じっとその場をやり過ごす。

クリスマス当日になって、賑やかなマーケットが終わると、嘘のような静寂が戻ってくる。

静かなまま新年になり、広場の中央には、1月4日までクリスマスツリーが飾られていた。

ツリーが片付けられてしまう日、人気のない広場の中央に向かって、クロは歩きだす。

マーケットの時期は、広場にすら出られないのに、今は、クロだけがゆったりと歩いて行く。寒さが厳しくなって、みなあまり外に出てこない。ケーキ屋を訪れる人も少なくなってしまう。

クロはクリスマスツリーの下に座った。昨日降った雪が凍っている。

3年前には、ここにクライネという犬が同じように来ていた。クライネ（小さい）というくらいだから、小型の犬かと思うが、そうではなかった。

クライネはアラスカで犬ゾリ用の犬として活躍していた。高齢になったので、ここに引き取られてきたのだった。

クライネも人ごみが苦手のようで、マーケットの時期は広場に出てくることはなかった。しかし、クリスマスツリーが静かに眺められる1月4日が好きなようで、必ずやってきていたのだ。

クライネの主人は、クライネが死んだあとも、この日になると、必ずここにやってきていた。

しばらくクロが座っていると、白いひげをたくわえた大柄の男が歩いてくる。クロはしっぽを激しく振った。クライネの主人だった。

「クロ、元気か？」

クライネの主人は、クロのからだをなで回した。

懐かしい友人に会ったように、クライネの主人もうれしそうだった。

「死んだクライネも、おまえに会いたいだろうな」

クロの顔をじっと見た。クロはゆっくりしっぽを振った。

「動物っていうのは、特別な方法で、コミュニケーションを取っているというじゃないか。おまえにはきっと、クライネの声が聞こえるんだろうな」

クロはクリスマスツリーを見上げるように、顔を曇り空に向ける。

「今日だけは、ここにクライネがいるような気がするんだ」

クライネのご主人もクリスマスツリーを見上げる。

クロはツリーとクライネの主人を交互に見つめる。クライネの声が聞こえているかのように。

クリスマスツリーにはクライネからの声を伝える大きなアンテナの役目をしているのかもしれない。クロはずっと曇り空を見上げていた。

米山公啓
（よねやまきみひろ）
作家・医師
2004年も脳関係の本がヒット。雑誌のインタビューや講演会、テレビ出演が多い年でした。著書は130冊を超え、ファンクラブは1300人を超えました。民主党・岡田代表とマツケンに似てると騒がれた1年でもありました。ホームページは
http://yoneyone.com

振り返る「濃いかったお仕事」シリーズ

2003年から2004年、濃くていな印象に残っこんな取材はこんな感じでした。

『メトロポリターナ』（産経新聞社）では、なぜかアメリカン・ビーフの取材でテキサスへ。1週間、牧場　見学とステーキを食べ続けて帰国。しかーし、本が出る直前にアメリカで狂牛病の牛が発見！ 関係者一同冷や汗をかきました。

『MISS』（世界文化社）では「ホテルのエステ」「温泉旅館のエステ」の取材。2週間で10件近いホテル＆旅館に泊まってエステを受けまくりました（それも回）。結論は「ホテル、旅館、エステはたまに行くからいいものだ」でした。

『東京ベイリゾート』（海事プレス社）では、伊豆七島に全部取材に行きました（それも冬）。大島、新島、神津島、利島、式根島、御蔵島、八丈島、小笠原。台風に追い返されながらも船で飛行機でヘリコプターで。つらかったですが、島の人の親切で乗り切れました。

『アエラ』（朝日新聞社）では女性向けの風俗を特集。取材のため、六本木に夜11時集合でホストクラブめぐりの日々が続きました。「朝日新聞社あてで領収書ください」と頼まれたホストもびっくり。

◆◆ 勝手に応援＆おめでとうコーナー ◆◆

演歌の星・ウメちゃん

青学経済学部で同じクラスだったウメちゃんは今は演歌歌手・小峰あずささんとして活躍。ファンクラブもあり、盛大なコンサートも開いてます。ウメちゃん、がんばってね！

GENERATION TIMES

『メトロポリターナ』編集室の伊藤剛さんが「時代を考える若い人へ向けた新聞を作りたい」と創刊した季刊の新聞。過去の事件や社会問題をきちんと見つめつつ、考えさせてくれるとてもいい新聞です。筑紫哲也さんなどの大物ジャーナリストも協力。
www.generationtimes.jp

SPA!

日本クリスマス協会会員の大久保かおりちゃんが2003年から『SPA!』（扶桑社）の副編集長に。初の女性副編集長だったので、「会社に女性用お風呂＆仮眠室がない」など最初は大変だった様子。たまには月刊クリスマスの原稿も書いてくださーい。

ディズニー・プリンセス

2002年に立ち上げた『ディズニープリンセス』（河出書房新社）はおかげさまでその後隔月刊化になり10万部を超えました。付録もどんどん豪華になっていきます。のびのぶ編集長は5年間やったディズニー雑誌を2004年でとりあえず卒業しました。でも見守っています。

◆そのほか

★日本クリスマス協会の初代からの会員、小口敏夫先生が御結婚されました！おめでとうございます。また薬剤とクリスマスの関係の論文をお待ちしています。
★愛に満ち溢れた私たち5人組のクラブ「愛クラブ」の料理研究家／鈴木真由実先生も結婚！ 産経新聞の清水麻子ちゃんにもベイビーが生まれました！おめでとー！

とってもミーハーシリーズ「この人を見ちゃった」

サーヤさん

松田聖子ちゃんの娘。ディズニー番組の司会をやっていたので。16歳なのにめちゃめちゃプロフェッショナルでびっくり。のびのぶ編集長もさやかさんの真似するも似ず。

タモリさん

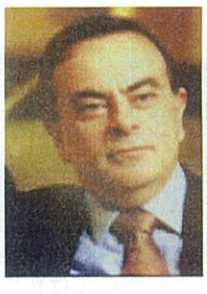
なんとクルーズ好きで「クリスタル・セレニティ」の日本寄航の時も遊びに来ていたほど。インタビューをお願いしたら自慢のキャプテン服で来てくれました。

藤子不二夫さん

藤子先生も対談で。笑うせえるすまんを目の前で描いてくれました。オフィスまで定期券で通ってると、定期券を見せてくれました。

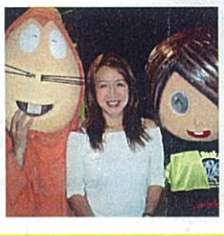
ゴーンさん

経済界大賞で見かけました。中小企業の社長のみなさまのアイドルで写メールを撮られまくってました。すてき～。（写真は斉藤美春さんが後日撮影した生写真ポラロイド写真）



鬼太郎とねずみ男さん

境港に近い温泉の浜辺に出現。目玉おやじはおらず。



〒151-0053
東京都渋谷区代々木5-20-11-D
TEL&FAX 03-3468-0364
藤原暢子
nobi@mtj.biglobe.ne.jp
090-3487-0032

〒101-0032
東京都千代田区岩本町2-1-15
（株）海事プレス社
クルーズ編集部
TEL 03-5835-4164
www.cruise-mag.com

お船ができたり、ドラマがあった長崎もちょっと話題。のびのぶママは毎週のように長崎のごはんや果物を宅配で送ってくれました。ありがとう。

←ハロウィーンとボラボラ島のお花だらけの写真でさようなら～。来年の発行をお楽しみに！

《編集後記》

藤原暢子

み、みなさん、やっと月刊クリスマスが2年ぶりにできあがりました。おめでとう。ありがとう。気がつくと、カレンダーは一年じゅう1月のまま、1ヵ月後は何をしているかわからない（というか、気にしてない）のびのぶ編集長の生活ですが、本人はそんなのら犬的生活がお気に入り。

でもライフワークの「クリスマス研究」と「世界ののら犬激写」はきちんと発表しよう（？）と、近況報告を兼ねて年に一度の『月刊クリスマス』を発行しています。で、振り返ると10周年じゃないですか。びっくりです。みなさん、今まで愛読ありがとうございます。

去年からはお勤め生活が始まり、2週間ほどのクルーズに出かけては残りの日々は会社に閉じこもって編集をし……という生活になり、ますますみなさんとお会いする時間がなくなった気もします。

また反対に『クルーズ』に協力していただいたり、相談に乗ってもらったりした方もいて本当に感謝です。

テロ、SARS、狂牛病、そして年末の津波…と、いろんな悲しい事件や出来事を身をもって感じる旅行業界の隅っこにいますが、のびのぶ編集長は旅をしながら、のびのびして、そしてちょっとづつ成長させてもらっているような気がします。

2005年こそはもう少し平和でみんながハッピーな生活や旅ができる日々が来ることを祈るばかりです。